

足立区議会議長 工藤哲也様

足立区議会議員 14番 長澤 こうすけ 印

文書質問書

会議規則第60条の2第2項の規定に基づき、次のとおり文書質問書を提出します。

記

テーマ及び質問項目

I. 出来る水害対策をなぜ始めないのか

区民の生命財産を守るのが政治行政の使命であることは言うまでもない。

突発的に発生し対策できない災害であっても可能性を模索しながら減災対策をすることは当然であり、予測が出来ているものは全て行うべきである。そこで伺う。

1. 令和3年第二回定例会において、東京都は豪雨対策アクション・プランを策定し、一部地域で1時間雨量75mm対応を進めており、当区においても、75mm対応など浸水対策の取組強化を要望すべきと質問した。

その際、北千住区域が「対策重点区域」に指定され、1時間雨量50mm対応とするため、千住関屋ポンプ所の整備事業等が進められており、まずは、これらの事業の早期完了などを、要望していくとの答弁であった。つまり、現段階ではそれ以上の水害対策は要望しないとの答弁である。

しかし、近年、地球温暖化などを理由に東京では1時間50mmを超える豪雨の発生回数が増加するとともに、局地的で短時間に集中するなど、雨の降り方も変化している事は周知の事実であり、足立区民は早急な対策を求めていることはこれまでに一般質問3回、予算・決算特別委員会、災害・オウム対策調査特別委員会でも繰り返し述べてきた。

そこで、改めて区として最近の水害に対するリスクの上昇をどのように捉えているのか。また、前回の本会議で、大きな視点で取り組みを進めるべきと質問したが、区部で組織している特別区下水道事業促進連絡会などを利用して、他区とも連携しながら東京都に対して、75mm対応などの要望をする必要があると考えるが、区として今後どのように取り組むのか伺う。

2. また、将来にわたって、区民の命と生活の安全性向上のためには、広域的な視点からの取組が重要と考える。東京都では、この7月に「都市強靱化プロジェクト（仮称）の策定に向けた論点」を公表し、調節池等の整備や【高台まちづくり】の取り組みの方向性を示している。

区は4地域で高台まちづくりに取り組むとしているが、区においても各地域の将来像などを示して、東京都のこのプロジェクトに対してしっかり連携していくべきと考えるが、今後の区の取り組み方と決意を伺う。